

(別紙)

鳥獣被害防止総合支援事業の評価報告(平成24年度報告)

実施主体名 : 川崎町鳥獣被害防止対策協議会

1 事業効果の発現状況

平成23年度からハード事業により、ワイヤーメッシュ柵等を導入した。また、平成23年度にイノシシ用箱ワナを23基、平成24年度には設立した田川南部協議会で22基購入しており、24年度は大幅に捕獲頭数が増加したことから被害金額、被害面積ともに大幅に減少した。この他、先進地視察や放置野菜の処理指導などを行い、被害防除の意識の向上に努めている。

2 被害防止計画の目標達成状況

購入したワナでの捕獲活動の強化及び侵入防止柵の設置により、今まで被害にあった箇所からの被害報告が大幅に減少し、被害防止計画の目標を達成することができた。昨年と比べ、設置していない箇所の被害報告はそれほど増加していないので、ワナ及び防止柵は適切な場所に設置できていると思われる。川崎町全域でのイノシシ・シカの捕獲頭数も大幅に増え、被害減少の大きな要因と言える。

3 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

Table with 10 columns: 事業実施主体名(協議会名), 対象地域, 実施年度, 対象鳥獣, 事業内容, 事業量, 管理主体, 供用開始, 利用率・稼働率, 事業効果. It details four projects in Kawasaki City for the years H21, H22, H23, and H24, managed by the Kawasaki City Bird and Beast Damage Prevention Strategy Committee.

Table with 2 main sections: '被害防止計画の目標と実績' (Target and Actual Results of Damage Prevention Plan) and '事業実施主体の評価' (Evaluation of the Implementing Organization). The first section shows metrics for damage amount (千円) and area (ha) for Inoshishi, Sika, and Ariguma. The second section provides a qualitative evaluation of the committee's performance.

4 第三者の意見

Table with 3 columns: 氏名 (Name), 所属名・役職等 (Affiliation/Position), and コメント (Comments). It features a comment from Hiroshi Ikeda, Director of the Fukuoka Prefecture Forest Technology Center, regarding the effectiveness of the damage prevention measures.